

(1) 野菜種子の消毒

1 農薬による種子消毒

農薬の登録内容及び使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)。

粉衣は乾燥種子を用いる。また、粉衣の際はマスクを必ず着用する。

種子浸漬は、浸漬後水洗せず風乾してから播種する。

湿粉衣は少量の水で湿らせた乾燥種子に薬剤を付着させ、風乾後に播種する。

2 温湯浸法による種子消毒例

作物名	病害名	処理条件※
トマト	萎凋病	55℃～60℃で 10～20 分
	半身萎凋病	45℃～50℃で 30 分
	かいよう病	55℃で 25 分
キュウリ	斑点細菌病	52℃～56℃で 10～20 分 又は 50℃で 10～30 分
	炭疽病	50℃で 20 分 又は 60℃で 15 分
スイカ	つる割病	55℃で 30 分
カボチャ	フザリウム立枯病	55℃で 15 分
ユウガオ	つる割病	55℃で 30 分 又は 57℃で 20 分 又は 60℃で 10 分 又は 69℃で 2 分
ダイコン	黒斑細菌病	50℃で 5 分
ハクサイ	黄化病	50℃で 20 分
キャベツ	根朽病	50℃で 5 分
	黒腐病	50℃で 30 分
	黒斑病	55℃で 10～25 分
	黒すす病	55℃で 10～25 分
	べと病	48℃～50℃で 20 分
カリフラワー	黒腐病	50℃で 30 分
ニンジン	斑点細菌病	50℃で 20 分
セルリー	葉枯病	48℃で 30 分
	斑点病	48℃で 30 分
ミツバ	立枯病	47℃で 10 分～20 分
トウモロコシ	倒伏細菌病	49℃で 10 分

※種子の状態や品種によって発芽障害を生じることがあるため、予備試験により発芽の状況を確認すること。

また、処理にあたっては温度、時間を厳密に制御し、処理後は直ちに広げ冷却するとともに風乾する。

3 乾熱消毒法による種子消毒例

作物名	病害名	処理条件※
トマト	萎凋病	40℃で 24 時間予備乾燥後、75℃で 7 日
	根腐萎凋病	萎凋病に準ずる。
	葉かび病	70℃で 2 日
	ToMV	70℃で 3～4 日
ピーマン	PMMOV	70℃で 3 日
キュウリ	黒星病	70℃で 2 日
	斑点細菌病	70℃で 3 日
	KGMMV	70℃で 2～6 日
メロン	つる割病	70℃で 3 日
	つる割病(レース 1, 2y)	75℃で 10 日
	CGMMV	70℃で 3 日
	えそ斑点病	70℃で 3 日
スイカ	炭疽病	70℃で 2 日
	CGMMV	70℃で 4～7 日
ユウガオ	つる割病	70℃で 4 日 又は 75℃で 6 日 又は 80℃で 5 日 又は 40℃で 24 時間予備乾燥後、75℃で 7 日
	CGMMV	70℃で 3 日
カボチャ	立枯病	75℃で 3 日
キャベツ	黒腐病	40℃で 24 時間予備乾燥後、75℃で 5～7 日
レタス	斑点細菌病	70℃で 1～4 日
	LMV	80℃で 3 日
カリフラワー	黒斑病	60℃で 120 分
ネギ	萎凋病	40℃で 24 時間予備乾燥後、80℃で 4 日
トウモロコシ	倒伏細菌病	50℃で 24 時間予備乾燥後、70℃で 7～10 日

※ 種子の状態や品種によって発芽障害を生じることがあるため、予備試験により発芽の状況を確認すること。

処理した種子を長期間貯蔵すると、発芽率が低下する場合がありますため注意する。

乾熱処理には乾熱滅菌器など専用の装置が必要である。